

という存在の第一歩を担ってほしいということである。

是否は別として現代は子どもに早期の成長を余議なく迫っている。小学校にもその波は押し寄せていると言わざるを得ない。十二分に機が熟するのを待っていては落ちこぼれの烙印を押される時代になっている。この問題に關しては多くの議論が必要ではあるが、とにかく、この間違った現状に警鐘を打ち鳴らすのは幼稚園のあり方だ

と期待している。幼児期にはそのときにやるべきことを思う存分やらせてみたい。幼稚園での絵画、歌、遊戯は、各々の子ども達の心や感情の表現のきっかけになればよいのだと思う。

子どものうちから湧き出るものを、そしてそののびやかな成長を、幼稚園と共に見守っていけたらと切に望むものである。

(千葉市在住)



富岡多恵子

我が家の娘は、近所に同年令の子供が少なく、又、遊び場になるような公園もないため、友達遊びも限られた範囲だけで、時間的にも子供同志で遊んでいるのは、一日平均一時間程度にすぎません。あとは、幼い弟を相手

にして遊んだり、絵本を読んだり、散歩や買物に出かけたりの日です。よそで、子供同志楽しげに遊んでいるのに会うと、自分も一緒に遊びたくて、遊びたくてウズウズしています。従って、「来年から幼稚園よ。」と言う

と、「幼稚園に行ったら、お友達がたくさんできるんじゃない？」と言って、ものすごく楽しみにしています。

親としても、幼稚園に行くようになったら、友達もできて、暗くなるまで外で、かけずりまわって遊ぶような子供になってくれたらと期待しております。

こんな現状ですので、幼稚園の先生方には、次のようなことを期待しています。第一に、「おともだちができる。」と大きく胸をふくらませて、幼稚園を楽しむにしている子供が、期待どおり他の子供達の中にスムーズに溶けこみ、楽しい時間を持てるように手助けしていただきたいということです。大人の目から見ると、子供達の世界というのは、決して美しく美しい世界ではなく、無邪気ゆえの残酷さや幼いながらも力の関係があり、そういう世界は、時には大人が軌道を修正してやらなければいけないのだらうと思います。その軌道修正の役をお願いしたいのです。人生最初の団体生活において、「皆といるとこんなに楽しいんだ。お友達って良いものだ。」ということが、どの子供にも実感されたら、どんなにす

ばらしいことかと思えます。人間同志の交流の楽しさが根底にあつてこそ、それを維持しようという欲求が生まれ、そこからきつと相手に対する思いやりとか、自らの我が儘を押えることとかを、具体的な形で学んで行くでしょう。

第二点は、近ごろ幼稚園の時から、漢字や和歌を覚えさせたり、算数や英語を教えたりする所が多いけれど、そのような教育は、子供が興味を示すならば意味があるのかも知れませんが、本来子供が持っている好奇心や活力を大切に、それを満足させ、伸ばすことに力を傾けてほしいと思います。英語や漢字でなくても、手近な自然や日常生活の中にも、いくらでも教育の題材は見つかるだらうと思います。例えば、教師が自らのスケジュールで子供を動かそうとしている時、外を眺めていたある子供が「あれ？ どうして昼間なのにお月様でいるの？」と聞いたとします。純粹に子供らしい好奇心から出たこういう問いを、聞きながさず、その興味をさらに伸ばすように、指導して下さったらと考えます。それに

よってスケジュールの方は、思いどおり進めることはできなくなるかも知れませんが、子供達は、何ごとにも興味を持ち、知りたいと思い、それを大切にする事によって、今の学校教育に欠けている勉強への真の動機づけも可能になるのではないでしょうか。

第三に、少々理想論になるかも知れませんが、このようなことを実現するためにも、幼稚園の教師は、ぜひ、

子供達を客観的に見つめることのできる、児童心理学その他の専門家であってほしいと思います。それも、子供に対するあふれるような愛情と興味を基盤とした。教師と言えども人間である限り、様々な欠点は免れないでしょうが、せめて、それをしよつちゆう省みて、「明日こそは」と考えるような人であってほしいです。

(静岡県伊東市在住)



入江礼子

それは冬の日の夜のことでした。娘(四才)と息子(二才)をそれぞれお風呂に入れ、パジャマに着換えさせ、私も着がえている最中に、突然玄関のブザーが鳴ったのです。飛んでいくこともままならず慌てていると、

娘が「あやちゃん見てくるよ。」と言ってドアを開け、やって来た新聞の集金のおばさんと何やらやりとりし、「新聞代だつて。」と言って戻ってきました。私はとっさにお財布からお金を取り出し、「あやちゃん、これをお